

鹿児島国際大学
鹿児島国際大学短期大学部
鹿児島高等学校
鹿児島修学館高等学校
鹿児島修学館中学校
鹿児島幼稚園

平成 25 年度 事業計画

(平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで)

鹿児島国際大学・鹿児島国際大学短期大学部

1 教育の力・研究力の向上を目指す事業計画

(1) 経済学研究科

- ①地域の経済・経営に貢献するスペシャリストを育成する。
- ②研究者の養成に加えて税理士など資格取得を目指す教育を行う。
- ③外国との交流により院生の国際的な関心を育てる。
- ④積極的な補助金獲得に励む指導の充実をはかる。
- ⑤提携大学との連携をさらに深め、地域・社会の研究を強化する。

(2) 福祉社会学研究科

- ①論文作成（博士論文を含む）・審査のステップを充実し、学位論文の水準向上につとめる。
- ②国内外との共同研究につとめ、地域に貢献する新しい研究を開発する。
- ③高い研究力を持つ教員の充実につとめる。
- ④博士後期課程在学学生および過年度修了者が九州地域の大学に「助教」として採用された。さらに就職支援につとめる。
- ⑤研究科の志願者増を図るため、10月「福祉社会学研究科主催公開シンポジウム」を開催する。

(3) 国際文化研究科

- ①「外国語教育と日本語教育を主とする国際的な高等教育」を特色としているが、さらに充実・整備につとめる。
- ②指導教員に加えて副指導教員を配置し、論文指導力を高める。
- ③留学生にたいする「日本語教育プログラムを活用した支援活動、「大学院志願者自習室」の設置により、研究科の充実をはかる。
- ④後期課程の学位取得者・満期退学者はほぼ100%就職し、前期課程修了者もほとんど就職しているが、就職情報の充実・就職支援にさらに努力する。
- ⑤成績優秀な学部生を対象とする「大学院特待生制度」の実現を図る。

(4) 経済学部

- ①経済・経営にかんする授業およびフィールドワーク（国内・海外インターンシップ等）により、地域社会・国際社会に貢献する人材育成を、さらにすすめる。
- ②各学年に演習を設置し、4年次の演習を必須化しているが、さらに共通科目にキャリアデザイン科目を配置し、就業力の育成を図っている。
- ③公務員・税理士を目指す学生たちと「顧問教員」がグループをつくり、公務員・税理士を目指す課外講座「公務員講座」、「税理士講座」として学生たちが自ら学びあうモデル学習を試験的に始める。
- ④新入生ゼミ発表会、卒論発表会を始める。
- ⑤経済学科では高校への出張講義を着実にを行い、経営学科では学生補助員（SA）の協力をえてキャンパス見学会の「模擬授業」を充実し、学生確保につとめる。
- ⑥地域産業との連携として、「マーケティング」等の専門分野との共同事業を行う。

(5) 福祉社会学部

- ①募集を停止した現代社会学科は、学生への目配り・指導を一層充実させ、「社会調

査士」の資格取得教育に力を注いでいる。

②児童学科は大学基準協会の認証評価で定員を大きく上回る入学を指摘されたので、入学を定員の1.2倍以内に抑える努力を継続する。

③社会福祉学科は「社会福祉士受験対策講座」の内容をさらに改善する。児童学科は「実習」をさらに重視して、キャリア形成支援・進路支援に力を入れる。

④鹿児島地域の地域・社会との連携を深化させるため、現代社会学科は目玉授業である「オムニバス講義」の一層の成果を追求する、社会福祉学科は卒業生を講師に招きシンポジウム等の積極化をめざす、児童学科は県下の小学校・幼稚園・保育園のネットワークを活かした多様な連携を進める。

(6) 国際文化学部

①国際文化学科は必修の卒業論文作成を最終目標に、計画的なカリキュラムを作り、学生が主体的・個別的な研究課題を追求できるようにする。

②国際文化学科は昨年新設したSSD(学科学生スタッフ)を強力に育成し、学生の自主性・創造性を高める。

③FD意見交換会を活発化して、授業改善を促進する。

④学部主催の「学内研究会」、紀要「国際文化学部論集」、「教員定期演奏会」の充実につとめる。

⑤広報活動として「出前講義」・こくさいAMUキャンパス@紀伊国屋書店・キャンパス見学会・HPの充実に努める。また、「県民大学講座」連携事業として、国際文化学科は毎月2回の連続講座、音楽学科は「吹奏楽指導法講座(屋比久先生)」・「リコーダーフェスティバル」・「マタイ公演」・「吹奏楽演奏会」等を行う。

(7) 鹿児島国際大学短期大学部

①2年生だけの構成になるため、教員の努力はもとより、卒業生の協力も得ながら、これまでの教育実践の総仕上げを行う計画である。

②現在就職内定率は約6割だが、最終的に9割に引き上げる努力を続ける。

2 事務部局の事業計画と進捗状況

(1) 総合企画室 (公財) 大学基準協会の自己点検・評価に係る事業計画

①平成24年度基準協会の外部評価を受審、平成25年3月大学基準に適合しているという認定を受ける。

②認定に提示された「努力課題」については「改善状況」を、「改善勧告」については「改善報告」を平成28年7月末日までに提出しなければならない。

③3月の認定後、ただちに自己点検・評価運営委員会と自己点検・評価実施委員会の業務・運営に変更を加え、それにしたがって②で述べた課題に対応する作業にとりかかる。

④HPの受験生特設サイトを充実させ、アクセス数を上げる。

(2) 学生部 学生支援活動にかかわる事業計画

①奨学金支援 奨学金受給学生は6割をこえ、4年前とくらべると5~6%増加しているが、奨学金なしでは困る学生が多い。今後とも奨学金の充実に図り就学の安定性を高める努力をする。

②学生相談室は学生の対人関係・学生生活・卒業後の進路などについて、機能の強

化を図り，早期の対応を心掛ける。

③学生の半数がサークル活動に参加しているが，HONORS特待生制度が導入され，大学全体の活気が増すと予測される。サークル活動は勉学とともに貴重な「学び」の場である。今後とも課外活動の活性化を図る。

④退学率が減少するよう，学部・学科と連動した活動をすすめる。

⑤留学生は本学にとって貴重な国際交流の資源と考え，教職員一体となって，関係機関との連携を深め，総合的支援を行う。

(3) 研究教育開発センター 教育・研究活動の推進

①平成18年4月に発足したセンターはFDの開発，ウォーミングアップ学習（入学前教育）等，教育内容・方法の改善につとめてきた（授業公開・教職員による授業参観・学生による授業評価など）。

②平成25年度から研究支援を加え，教員の研究活動・教育力向上にもつとめる（外部研究資金の確保など）。

(4) 就職キャリアセンター キャリア・進路支援

①教職協働による学生のキャリア・進路支援を充実させる（学生情報の共有が不可欠）。

②学生の職業観・勤労観の育成のため，キャリアガイダンス・研修会を通じてキャリア形成の啓発を行う。

③資格（日商簿記2・3級，FP技能士3級，MOS）取得をサポートする。

④就職活動に必要な基礎学力・自己分析・業界研究・面接対策を支援する。

⑤対面による直接指導の充実をはかる。

⑥積極的な企業訪問による就職の開拓を行う。

(5) 入試室 学生確保と広報活動

①高等学校訪問の強化。

②沖縄・熊本・宮崎など県外のマーケットシェアを拡大する。

③HONORS特待生制度・学費等減免制度を周知徹底する。

④会場型進学説明会への積極的参加。

⑤キャンパス見学会の充実。

⑥テレビCM・受験誌・新聞広告・Webなど効果的広報を探索する。

⑦大学HPの受験生特設サイトを活用する。

(6) 教務部 今後の課題と対策

①平成27年度に向けたカリキュラムの見直しと教職資格の精査を行う。

②「不本意入学生」を本学の学生生活・学習に興味を抱かせる「学生の居場所」を，「新生ゼミナール（全学科1年次履修指定科目）」等を通じて作る。

③「進級制度」を実質的に活用し退学率・留年率の減少をはかる。

④「履修モデル」をさらに整備して体系的な学修を支援する。

⑤「出講義等に関する理事会の方針」（平成25年4月施行）の真の意味をふまえ，オフィスアワーを活用する。

⑥学内改善対策

a. 学生を支えるゼミ担当者の育成

b. 学友会との協同

c. 実習センター関係の教職・資格にかんするコミュニケーションの充実（学生を中心に置き、ゼミ担当者とセンター職員との連携の深化）

(7) 地域総合研究所

- ①平成 20 年度より「地域における知のネットワーク形成」をテーマに研究し、現在 2 期目にはいつている。地域を鹿児島に限定した研究を目標としている。
- ②平成 24 年度は沖永良部を対象に、調査研究を行い『地域総合研究』に論文、研究ノート、地域情報として公表している。
- ③平成 25 年度は徳之島、南大隅の調査を行う計画である。
- ④調査の課題は社会福祉の現状とその持続可能性・産業発展の方向など。

(8) 情報処理センター 情報処理施設・設備関係

- ①4 号館 3 階 431 教室を情報処理教室へ改修
- ②学生情報システム (Live Campus) のリプレース
- ③学内ネットワークのリプレースと強化
- ④教職員用パソコンのセキュリティ強化
- ⑤出欠記録システムの機能追加、修正
- ⑥研究室パソコンのリプレース

(9) 図書館 学習支援、地域・社会との連携

- ①学習支援として、各学科選定図書委員と図書館員による授業との関連図書の選書・収集
- ②利用者教育：ガイダンス、データベース利用説明会
- ③学外利用者への施設開放と学習支援：高校を中心に図書館利用をアピール（特に、「調べ学習」に本学図書館を利用してもらう。）
- ④文部科学大臣委嘱司書講習の実施（7 月 22 日～9 月 23 日）（隔年実施）
- ⑤学術情報の公開：鹿児島国際大学リポジトリ（平成 23 年度より：継続）
各編集委員会との連携、登録時期の見直し、鹿児島共同リポジトリ

以上 鹿児島国際大学・鹿児島国際大学短期大学部

鹿児島高等学校

1 基本方針

平成24年度は、「審」の年度であったが、25年度は「伸」の年度とする。90周年にあたることを念頭に次の5項目について1段レベルアップ(伸)を図る。

- (1) 教科教育力(授業力)・学級経営力 ～ 教科活動・学科活動・学年活動
- (2) 生徒指導力(あいさつ指導・服装指導・美化指導)
- (3) 進学・就職の実績
- (4) 要支援生徒の指導
- (5) 三弧会・保護委員会の自主的活動

2 教育計画

(1) 教務部

- ① 具体的で有意義な結論の出せる会議の開催
- ② 教育力を高める評価制度の再検討
- ③ 入試作業のマニュアルを完成する。

(2) 生徒指導部

- ① 服装・校則遵守指導の徹底
- ② 交通安全・通学マナー指導の徹底
- ③ サイバー犯罪やインターネットに関するモラル指導の徹底
- ④ 共通理解・共通実践と率先垂範の推進

(3) 進学指導部

- ① 教科と連携し学年・学科に応じた進学体制を強化する。
- ② 生徒一人ひとりの学力を把握し、保護者との十分な連携によりの確な進路指導を行う。
- ③ 生徒の進路実現のため、学力の向上に努め特に難関大志望者の合格を目指す。

(4) 就職指導部

- ① 3年間を見据えた進路指導体制を確立する。
- ② 基本的生活習慣を確立し、学力を強化し難関企業への就職をめざす。
- ③ 教科・学年と連携して、キャリア教育を推進する。
- ④ 生徒の興味・適性・能力に応じた職業指導に努める。
- ⑤ 雇用情勢に対応した指導を行い、求人企業の拡大に努め、就職率5年連続100%をめざす。

(5) 保健安全部

- ① 朝食を摂る生活習慣の確立
- ② 安全指導・安全管理の徹底
- ③ 意欲的に体力向上に取り組む生徒の育成
- ④ 環境衛生・美化に対する意識と態度の育成
- ⑤ 避難経路を総合的(火災・地震・水害)に見直す。

3 生徒募集計画

- (1) 生徒募集対策委員会で中長期的な募集活動を検討・策定する。
- (2) 校内の情報を収集する体系を確立し，効率的かつ迅速に校内外に広報する。
- (3) 学習塾訪問を組織化すると同時に，連絡会の内容を充実させ連携を強める。
- (4) 体験入学の内容について見直し，参加者の満足度を向上し受験生増につなげる。
- (5) 中学校訪問の重点校を定め，信頼関係を再構築し受験生の確保につなげる。

4 施設整備計画

- (1) 体育館の建替えの検討
- (2) プールの屋根修理
- (3) 犬迫グラウンドの給水設備

5 その他の計画

- (1) 窓口対応等に腐心し，保護者並びに生徒からの評価向上に努める。
- (2) 職員の少数精鋭化を図るため業務の見直しと効率化を推進する。
- (3) 職場環境改善の一環として始業・離席・終業時のあいさつを励行する。

以上 鹿児島高等学校

鹿児島修学館中学校・高等学校

1 基本方針

建学の精神に則り、全人教育を基調として、将来、社会（国家社会・国際社会）の発展と人類の進歩に寄与し得る有為な人材を養成する。

- ①生徒の個性・能力を伸長し、自主性・独立性・創造性を培う。
- ②自由と規律・寛容と協調の心を育てる。
- ③進路実現のための高い学力の養成に努める。
- ④健全で豊かな精神を養い、人生の真理の追究と幸福を追求する人間を育成する。

2 教育計画

(1) 年間の円滑な学校生活の提供と運営《教務部》

①年間指導計画・授業進度表の作成と実践

生徒・保護者への提示および実態に応じた計画的で分かる授業の計画

②社会人としての基礎力養成

「7つの習慣J」, [よのなか]科を中心とするキャリア教育を, 日々の学校生活や学校行事にも体系化

③教職員の研修

- a. Q-U・書画カメラの活用研究
- b. 授業力向上のためのDVDを利用した研究等。

④授業の公開

保護者会・授業公開週間において, 保護者や地域の方に対し目的を持った授業公開をする。

⑤検討課題研究

- a. 地域との更なる連携・情報発信
- b. 英語教育の特化
- c. 鹿児島高校・鹿児島国際大学との連携
- d. 学校行事の見直しと改善

(2) 生徒の能力を拓く指導力の改善と向上《進路企画部》

①生徒個々の目標達成のための学力の向上

- a. 効率的な補習等の実施
- b. 個々の生徒の目標・学力について教師間の共通理解
- c. 個人指導の充実

②明確な進路意識の確立

- a. 上級学校または職業への興味・関心の喚起

③進路情報の提供

- a. 保護者会・進路ガイダンスの開催
- b. 進路便りの発行

④授業の活性化

- a. 研究授業, 授業評価の実施
- b. 指導力向上のための研修・視察の実施

- ⑤社会人基礎力の養成
 - a. 「未来マップ」の作成
 - b. 「OBトーク」の実施
- (3) 全員で協力して取り組む生徒指導《生徒指導部》
 - ①基本的生活習慣の確立
 - 整理整頓，あいさつ，マナー，服装・頭髪，時間厳守の啓発
 - ②生徒会の活性化
 - a. 学校行事への生徒参加
 - b. あいさつ運動，朝の清掃活動，ボランティア活動，部活動の活性化
 - ③生徒自身の健康への意識高揚
 - a. 健康診断等の全員受診，学校保健委員会の開催，保健だよりの発行，
 - b. 心肺蘇生法講習会の実施，保健講話の実施
 - ④生徒相談の充実
 - 教育相談の実施，スクールカウンセラーとの連携，いじめの実態調査，不登校の実態調査，別室登校生徒への対応
 - ⑤ホスピタリティの向上
 - a. Q-Uの実施
 - b. 学校周辺および通学路の清掃

3 生徒募集計画

- (1) 全員力で，より効果的な広報を《総合企画部》
 - ①より効果的な塾・学校訪問の実施
 - a. 4～5月 訪問塾の新規開拓
 - b. 6月，9月，11月 塾・学校訪問（案内）
 - c. 1～3月 塾・学校訪問（報告・お礼）
 - d. 公立中での学校説明会への参加
 - ②より効果的なイベントの運営
 - a. オープンスクール
 - b. 塾対象説明会
 - c. 学校説明会
 - ③より効果的なWebの活用及び校内の情報共有化
 - a. ホームページの更新
 - b. 校内外への情報発信

4 施設整備計画

- (1) より魅力ある学校を目指して《事務室・図書室》
 - ①生徒・保護者の満足度向上を図る施設・設備の整備
 - a. 校内諸設備の利用状況の確認と利用向上策の策定
 - b. 生徒のニーズに合った施設・設備作り
 - ②図書室のリニューアル
 - a. 学習・読書に適した書架，学習机等のレイアウト変更

b. 探し易い図書配架への見直し

5 その他の計画

(1) P T Aとの連携強化

①保護者への連絡体制の見直し

②教育講演会など共同事業の実施

(2) 同窓会の活性化

①同窓会総会開催に向けて積極的支援

以上 鹿児島修学館中学校・高等学校

鹿児島幼稚園

1 教育目標

恵まれた自然環境を生かして、元気で、明るく、のびのびと活動する心豊かな幼児を育てる。

《基本方針》

- 一人一人を大切にされた教育に徹する。
- 子どもの主体的な活動を促すとともに、創造性を豊かにする。
- 基本的な生活習慣や態度を育て、豊かな心情を育む。
- 家庭・地域との連携を深め、子どもの自立に向けた基盤を育成する。

キャッチフレーズ：「緑いっぱい 笑顔あふれる 鹿児島幼稚園」

2 重点施策

1. 教育内容の充実

(1) 子ども一人一人の良さを伸ばす保育の充実

- ①保育内容の見直しと環境づくり
- ②園内研修の充実による教員の指導力の育成
- ③特別支援教育及び「幼児教育相談」の充実
- ④教育実践や園児の活動(作品)の積極的応募

(2) 心の教育の充実～“明るい笑顔・元気なあいさつの幼稚園に”

- ①基本的な生活習慣・態度の育成
- ②異年齢での交流活動の促進
- ③絵本に親しむ活動の充実
- ④花や野菜の栽培や動物の世話など自然とのふれあいの充実

(3) 保健・安全管理の徹底

- ①日々の安全指導の徹底（事故防止・不審者対策）
- ②園バスの安全運行
- ③健康教育の徹底（うがい・手洗いの励行）
- ④給食指導の充実による「食育」の推進

(4) 家庭教育の充実及び地域の子育て支援センターの役割強化

- ①未就園児親子対象の「ちびっこクラブ」の充実
- ②「子育てセミナー」の充実と参加者の拡大
- ③「親子で遊ぼう」（在園児対象）の活動内容の充実
- ④保護者・地域の声を生かした「開かれた幼稚園」づくり

(5) 鹿児島国際大学の教育実習園としての役割・機能の強化

- ①大学（児童学科）との連携・協同による教育の充実
- ②教育実習内容の見直し・充実
- ③学生の保育体験やボランティアの受入れ

(6) 幼・小・中学校や地域との連携

- ①近隣幼・保・小・中との連携
- ②地域（高齢者）や施設（特老）との交流

2. 事務の効率化と環境整備

(1) コンピュータの活用による円滑な事務の推進

- ①パソコン活用による園事務の効率化
- ②適正な情報管理ホームページの刷新と活用
- ③情報の共有化と迅速な対応

(2) 環境の整備・充実

- ①施設・遊具の安全点検の徹底
- ②グラウンドへ「屋根付きテント」の設置
- ③自作遊具の設置（グラウンド周囲）

以上 鹿児島幼稚園